



依頼主の気持ちを、 生花を通して 伝えていきたい

なでしこカ

Power of Nadeshiko

生花が持つ力にこだわり、刻々と変わる社会情勢に即した様々な事業を展開してきた abeille (アベイル) の吉村美恵さん。植物の持つ力をさらに追求するため、10 月からは中津川市 (岐阜県) に新たにアトリエを構え新事業も スタート。生産拠点としても動き出す。

「abeille(以下・アベイル)は、皆さまのお気持ちのお届けの代役を承っています」と代表の吉村美恵さん。各種会場の装飾花、ショップやパーティのディスプレイを、植物を使った唯一無二の表現で提供している。大手クライアントからも定期的に継続的な依頼が入る。「アジア競技大会 (9 月 19 日～10 月 4 日開催)・アジアパラ競技大会 (10 月 18 日～10 月 24 日開催)」では、開会式・閉会を愛知県の生花で飾る。

生花で依頼主の心を届ける

アベイルの仕事は、単に花束を作って届けたり、空間を美しく飾るだけではなく、依頼主の感謝の心、お祝いの心など「依頼主の気持ちを届けるサポート」を行う。「生花は生きているもので、ずっと前から準備しておけないもの。だからこそ生花を通して特別感を味わっていただける、大切な人を幸せにできるものだと思います」。

アベイルの仕事象徴するのが、日産愛知販売株式会社で 2022 年から取り組んでいる、新車購入者への「感謝の花束のお届け」である。新車納車時に店舗スタッフからお客様へ花束を贈呈のセレモニーを実施している。気持ちを伝えるために「生のお花」にこだわった販売会社の担当スタッフの想いから、4 年間の試行錯誤を続けて、季



自動車展示装飾

節に合わせた新鮮な花束をお届けできる仕組みを作った。顧客様にも大変喜ばれている。

フラワーアレンジメント講師、 アトリエ開業、新製品開発も

アベイルの「他と一線を画した作品や取り組み」に注目した専門学校は、15 年前「フラワービジネス科」での講師として吉村さんを招致。現在も、フラワーウェディングの知識や、基礎技術、ブライダルフラワーのビジネスモデルなどを教えている。

企業の商品の売り上げを左右する新商品カタログでの花器や雑貨の見せ方、スタイリングやアレンジメントの仕事も請け負っている。

祝儀袋などを飾る水引 (主な生産地は長野県飯田市) の国内生産は、後継者不足と輸入品の増加で需要が減少、知人の生産者から「本当に質のよいものをわかってもらえる場が減っている」と聞いた。すると吉村さんは丁寧に作られた真っ直ぐな水引を、あえて丸めてふんわりさせてそのしなやかさを表現し、フラワーアレンジメントを引き立てるパーツにしてみた。するとこのデザインが今の時代にはまり、フラワーアレンジメントの世界で注目された。丈夫で美しい国産品でしかできないパーツの売れ行きは順調で、水引の新たなニーズの拡大と、生産の継続にもつながった。

花ビジネスの始まりは店舗として覚王山に開業し「今まで以上にお客様の思いを届ける場所」として 8 年前に大曽根駅近くにアトリエを構えた。花業も 27 年目に入り、オーダーブーケ、アレンジメントをさらに追及する場所であり、心を

癒していただく場所としてフラワーレッスンも行っている。

第二の拠点「里山花工房」を中津川に

吉村さんは仕事を続けるうちに「花からいただく力を皆様へもってお届けしたい」という思いが強くなった。「植物から頂戴する人を癒す力」を追求しようと、この10月には生まれ育った中津川市内にアトリエ「里山花工房」をスタートさせる。中津川市で採取できる植物を使い、花のアトリエとして発信、商品開発、販売を行っていく。

アトリエは4年前からDIYでコツコツと作り続けて「理想の空間」にした。これに並行し、自然由来の香りで精神の安定につなげる「貼るだけアロマ」＝写真＝を開発。中津川産のヒノキを主原料に、中津川で新しく迎えたスタッフ、調香師ら多くの人の協力を得て作り上げた。更に地域の雇用を生むため、中津川の気候に合った「レモンガラス」の生産を手掛け、活用と販売を進めていく。



貼るだけアロマ

「思ったように表現していい」

自然が豊かな中津川市で育った吉村さんは沢山の家畜やペットに囲まれ暮らしていた。高校卒業後は愛知県の会社に就職。その後、様々な仕事を経験する中で、ブライダル会場に飾られた生花の美しさに出会い、夜も眠れぬほどの衝撃を受けた。様々な人の出会いもあり「花を扱う仕事をしたい」と心に決め、「生活のための仕事」と「夢を追う花屋の仕事」を掛け持ちして働き続けた。アルバイトをしていた花屋の店主が、フランス・パリでの撮影を企画、補助スタッフとして同行した。「花への考え方」や「花の文化が日本と全く違うこと」を知り、「今度は一人でゆっくりフランスに来てみたい、もっと知りたい」と帰国した吉村さん。思い立ったらすぐ行動する性格で、帰国直後から一年間みっちり働き、旅費を貯めて再度渡仏した。



里山花工房アトリエ

その後も「一年間お金を貯めては、現地で40日程度暮らして花を巡り学ぶ」を合わせて4回繰り返し、フローリストという職業も知った。一番学んだのは「思ったように表現していい」ということ。吉村さんは従来の常識に縛られない、自由な表現を花の世界に持ち込み、今の仕事に繋げた。

「人と人をつないで、優しさが幸せに」

との思いが事業に

「自由に表現していい、お花の魅力」を伝える吉村さんのレッスンには、多くの人が学びに来た。コンテストでも数多く受賞し、花で表現することにますます夢中になっていった。

さらなるデザインの探求心で店舗から特別感のある空間作りをしたマンション内のアトリエに拠点を移しフラワーアレンジメント教室を主宰。13年の月日を重ね、自分の花人生を振り返ると、「多くの人に支えられていること」に改めて気づき、「感謝の気持ちをどう表し、恩返ししていったらよいか」と立ち止まった。

尊敬する経営者の大先輩からの「植物は地面に根を張って成長するんだよ」との言葉をもらい、マンションから北区・大曽根の戸建にアトリエ移転を決意。ここで「お客様の思いをよりきちんと形にする」という現在の仕事が出来上がった。

アトリエ移転から8年、中津川市に第二の拠点「里山花工房」を開業し、「貼るだけアロマ」のOEM販売も始める。自身が生まれた地・中津川市への恩返しの気持ちを含め、魅力を再認識していく。

「植物の力を追求し、完成したもので皆が幸せを感じていただければ。生花が『人の幸せ』を後押しできるようにと懸命にやってきたことが、様々な人の助力で仕事につながってきました」。

周囲の環境を自分の中に取りこみ、醸成させて新しいものを作りだしてきた吉村さん。利益追求でなく、人の幸せを願いながら新ビジネスを構築し続ける姿には、強さとしなやかさを感じる。今後も、まだまだ新しい展開がありそうだ。



(塩崎 記子) ブライダル準備作業を行う吉村さん